

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名（ 宇治山田高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		自主性を尊重し、互いに協力し合い高め合うなかで、知性と教養、豊かな人間性を育み、進路希望を実現する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 志を持って、自ら考え、判断し、行動する生徒 ○ 豊かな人間性を備え、自らを律し、他者を思いやり協力することができる生徒 ○ 目標に向かって、失敗を恐れず、努力し、挑戦し続ける生徒
	ありたい 教職員像	○ 情熱と誇りを持ち、人間性豊かで生徒を第一に考え行動する教職員 ○ 目指す学校像の実現に向かって、やりがいを感じ、協力し、助け合いながら、ともに成長していく元気な教職員 ○ 専門的な指導力と社会性、高いコンプライアンス意識を持ち、生徒・保護者や地域の方々から信頼される教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	《生徒》 ほとんどの生徒が大学進学を希望しており、その実現のため学習活動の充実を期待している。また、クラブ活動にも熱心に参加する生徒が多く、学習活動との両立を望んでいる。 《保護者》 上記生徒の期待に加えて、学校からの情報提供を求めている。 《地域》 各分野におけるリーダーとしての人材の育成を求めている。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 《家庭》学校からの情報提供 《地域》地域を担う人材の育成 《同窓会》学校の活性化、生徒の活躍	連携する相手への要望・期待 《家庭》本校の教育方針・教育活動への理解と協力 《地域》教育活動への理解と協力 《同窓会》教育活動への理解と協力
(3) 前年度の学校関係者評価等	「学校関係者評価委員会での主な意見」 ○ 成果指標について検証を行い、より詳細な分析から教科指導に係る指導力を一層高める方策を導き出し、さらに質的な向上につなげていてもらいたい。 ○ 感染症禍のなか、学校行事を基本中止せず、可能な範囲で実施したことにより、学校生活への充実度が増し、学習意欲の喚起につながり、きめ細やかな教科指導と相まって進学実績の向上や高校入試の倍率につながったのではないかと考える。本校の学校文化の核は、充実した学校行事にあり、生徒相互が共有する時間を創出するなかでの学びや体験を通して、生きる力が培われ、将来、地域社会に貢献する人材へとつながっている。この点についての認識を学校運営に一層活かしてもらいたい。 ○ ICT教育についても国際交流や遠隔地からの講演など、さまざまな取組が考えられる。多くの人材を有する同窓会により協力を仰ぐなどの方策も考えられる。一方で教職員が生徒のために相当の時間を費やしている現状もある。教職員の心身の健康にも十分留意した学校運営を望む。	

(4) 現状と課題	教育活動	○ 真面目で素直な生徒が多く、規律を守り、学習活動や部活動に熱心に取り組んでいます。生徒が将来社会の一員として活躍できるよう、自ら学ぶ態度や主体性を育み、一人ひとりが持つ可能性を一層引き出していく必要があります。 ○ 生徒の進路希望を実現するために、課外授業やきめ細かな進路指導等に取り組んでいますが、学校全体でより効果的な指導ができるよう取り組んでいく必要があります。 ○ 進路や友人関係等、様々な悩みを抱える多感な時期の生徒が、安心して学校生活が送れるよう、一人ひとりに応じた丁寧な対応が求められています。 ○ ICT 環境の整備が進められており、今後、学力の定着や生徒の学習状況に応じた指導など、効果的な活用が求められています。 ○ 新型コロナウイルス感染症への対応が求められる状況が続いています。感染症対策を徹底しつつ、授業や学校行事、部活動等の教育活動が継続できるよう取り組む必要があります。
	学校運営等	○ 教職員は、教科指導や担任業務、各分掌や各学年の業務に責任感を持って取り組んでいます。今後もより良い教育を継続的に提供していくため、学校全体で取り組んでいく必要があります。 ○ 地域の中学校卒業生数の減少に伴い、学級数が減少しており、今後も中学校卒業生数の減少が見込まれます。また、国では普通科改革の方向性が示されました。こうした中で、本校の今後の方向性を検討する必要があります。 ○ 学級減により職員数が減少する中でも、教職員は教育の質を維持できるよう、やりがいを感じながら指導にあたっていますが、多忙化が課題となっています。 ○ 学校を取り巻く環境が、多様化・複雑化しており、教職員が互いに協力しながら業務を進めることが必要となっています。 ○ 生徒や保護者との信頼関係をより強いものとしていけるよう、保護者への丁寧な情報発信やコンプライアンスの徹底に取り組んでいく必要があります。

3 中長期的な重点目標

教育活動	○ 各教科における主体的・対話的で深い学びや総合的な探求の時間、学校行事や生徒会活動など、生徒が主体となって考え、協力して取り組む活動を充実し、学力の向上とともに、主体性、社会性、協調性などの育成に取り組みます。 ○ 学習指導要領の改訂、大学入学共通テストなどに対応し、国公立大学をはじめとした生徒の進路希望が実現できるよう、授業や指導方法の研究に取り組み、学校全体で計画的な指導を進めます。 ○ 生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育相談の充実に取り組むとともに、人権教育やホームルーム活動、学校行事等を通じて、自他を大切にする心の育成に取り組みます。
学校運営等	○ 生徒を第一に考え、一人ひとりを大切にする視点から教科指導、進路指導、生徒指導、教育相談等の教育活動が継続的に進められるよう、全ての教職員への情報提供に努め、学校全体で目的や方向性を共有し、組織力の強化に取り組みます。 ○ 様々な業務や生徒の指導を教職員がひとりで抱え込むことなく、積極的に情報共有や相談を行い、互いに助け合い、支え合う環境づくりを一層進めるとともに、業務の精選や平準化などに努め、勤務時間の縮減に取り組みます。 ○ 県立高等学校活性化計画や国の普通科改革の動向をふまえながら、将来的な本校のあり方の検討を進めるとともに、生徒・保護者や地域から一層信頼される学校となるよう、コンプライアンスの確保、情報発信の充実に取り組みます。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	新しい学習指導要領や大学入学共通テストの趣旨を踏まえた授業改善や指導方法の工夫などに取り組むとともに、授業アンケートを実施し、組織的に改善を進め、学力の向上と自ら学ぶ態度の育成に取り組めます。 【活動指標】 ○ 生徒対象の授業アンケートの実施 年 2 回 ○ 授業改善のための研究授業、教職員研修 2回以上 【成果指標】 ○ 第2回授業アンケート結果が第1回の結果を上回る。	授業アンケート1回、山高アンケート1回 ICT を活用した授業の研究3回 授業アンケート1回のみとなり確認できず	
キャリア教育・進路指導の充実	生徒が目的を持って希望する進路を決定し、実現できるよう、各種ガイダンス、大学見学会、出前授業、進学希望者集会、卒業生との進路懇談会などを計画的に実施するとともに、3学年の学年会を毎週開催し、組織的に進路指導を進めます。 【活動指標】 ○ 卒業生等による進路懇談会・相談会の実施 3回以上 ○ 保護者向けの進路講演会等の実施 1回以上 【成果指標】 ○ 目標を持って努力している生徒の割合 80%以上	県立看護大学に進学した卒業生による相談会 1回 オンラインにより3年生保護者に実施 78.1%	
生活指導の充実	(生徒指導) 安心して学校生活が送れるよう、いじめ等の防止、早期発見に取り組むとともに、社会の一員として、必要なマナーや礼儀などが身につけられるよう挨拶や服装指導等に取り組めます。 【活動指標】 ○ 定期的な校門指導と家庭との連携 随時 ○ いじめに係るアンケートの実施 学期に 1 回 【成果指標】 ○ 遅刻生徒数 対前年度比5%減 (生徒会活動) 学校行事やいじめ防止活動などを、生徒会が主体となって企画立案、実施する取組を充実し、生徒の主体性や行動力の育成に努めます。 【活動指標】 ○ 生徒会による学校行事や活動の企画立案、実施 3回以上	実施済み 実施済み 前年比94.6% 体育祭、クラスマッチ2回、文化祭、お昼の校内放送	
安心して学べる環境づくり	(教育相談) 様々な悩みや不安を抱える生徒へのきめ細かな支援を行うため、教育相談体制の充実、個別面談の実施、生徒の支援に関わる情報の共有などに取り組めます。		

	【活動指標】 ○ 個別面談の実施 3回 ○ 生徒の支援に関わる情報の共有 必要に応じて適宜 (新型コロナウイルス感染症への対応) 新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、基本的な対策を徹底するとともに、日常の健康状況の把握、生徒・保護者への丁寧な情報発信に取り組みます。また、感染者が確認された際には、教育活動への影響を最小限にとどめられるよう、迅速かつ組織的に対応します。	3回実施 実施	
--	---	------------	--

改善課題

- 学習指導の充実については、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、授業アンケートが1回の実施のみとなり、保護者や地域と連携した取組も予定通り実施できなかった。次年度は、保護者や地域との連携に取り組む必要がある。
- 令和3年度は、ICTを活用した授業のための研修を実施したが、令和4年度から新しい学習指導要領が実施されることから、学習指導要領をふまえた指導を行えるよう、授業研究などの取組を一層進める必要がある。
- キャリア教育・進路指導の充実については、卒業生による進路懇談会や外部講師による講演会等が予定通り実施できなかった。国公立大学進学者は、昨年度に比べ減少したが、数年ぶりに名古屋大学、神戸大学など難関大学の合格者を出すことができた。
- 生徒指導の充実については、特別指導を受けた生徒はなく、いじめアンケートの結果についても周りの生徒の言動で不快な思いをしたと答えた生徒が数名いたが、個々に聞き取りを行い丁寧に対応した。
- 生徒会活動については、新型コロナウイルス感染症により制約がある中で、生徒が主体的に行事の内容を企画することなどが一定進んだ。特に2学期末から生徒会の発案により、昼食時にいじめ防止を呼びかけるなど、生徒会による校内放送の取組を行った。
- 安心して学べる環境づくりについては、個別面談やカウンセラーによる相談、講演等を実施するとともに、支援が必要な生徒の情報を関係教職員で共有し、対応することができた。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学校組織の活性化	学校全体の教育力を向上し、教育活動を効果的かつ継続的に進め、よりよい教育を提供していくため、校内の情報共有や協力体制の強化、校内研修の実施などにより組織力の向上に取り組めます。 【活動指標】 ○ 人権教育推進委員会や各学年会などでの情報共有 毎週 ○ 分掌間、学年間の情報共有の促進 随時 ○ ケース会議の開催 随時	実施 実施 実施	

5 学校関係者評価

明らかにになった 改善課題と次へ の取組方向	(学校関係者評価委員会での主な意見) ○ ICT を活用した教育は良い面があるが、一方で、実際に何かに触れたり、体験したり、人と係わったりすることも大切であるため、ベストミックスを考えながら取り組んでいくべきである。 ○ 報道等への情報提供は、取組内容を見てもっとできるものがあつたと考えられる。生徒が取り組んでいることを発表するだけでも良いのではないか。 ○ コロナ禍でギガスクール構想が加速したが、もう一歩ステップを目指して取り組んで欲しい。オンラインの活用を進めることで、高いスキルを持った人に教えてもらうことができるため、現在の学校での指導とのバランスを考えながら取り組んでいく必要がある。 ○ 全体的に目標値に届いていない指標もあるが、マネジメントの評価は適切に行われている。生徒会の主体的な活動が進んだことは特筆すべきことであり、報道等への情報提供はできるものを選んで進めていくようにすべきである。
------------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	○ キャリア教育や探究活動を進める中で、保護者や地域との連携を進めていく。 ○ 新学習指導要領の趣旨をふまえた指導が進められるよう、学習評価の改善や授業の工夫改善などに組織的に取り組んでいく。 ○ 生徒会活動や学校行事など、生徒の主体的な活動をさらに充実できるよう、様々な機会を通じて取り組んでいく。
学校運営につ いての改善策	○ 働きやすい学校づくりにつながるよう、業務の見直しや学校の組織体制の見直しに取り組んでいく。 ○ 地域や中学生とその保護者等に、学校の教育活動をより理解していただけるよう、ホームページでの情報発信や報道機関への情報提供を一層進めていく。